

## 飛騨の里

朝靄煙る田舎の集落に迷い込んだ。池には白鳥が優雅に水面を滑るように私の方にやってきた。歓迎してくれているようだ。ここは飛騨民俗村「飛騨の里」の入り口からの風景である。高山市の中心部近くにあるものの、自然豊かな丘陵地から北アルプスと市の街並みが一望できる。

飛騨の里の池周辺に移築された茅葺き屋根の民家は6軒あり、合掌造り家屋と入母屋造り家屋に大きく分けられる。これらの茅葺き屋根は日本の気候、風土、伝統、技術、そして先人の知恵が凝縮された住居形態となっている。

「合掌造り」は茅葺き屋根が三角形で合掌した手の形に似ていることから付けられている。飛騨地方の豪雪地域に多く建てられており、雪に強い茅の特性を生かし急勾配の屋根となっている。

一方「入母屋造り」屋根の作り方の違いで帽子をかぶった形のように見える。合掌造りに比べて屋根の傾斜が緩やかで、部屋の中での作業スペースを出来るだけ広く使うための工夫がなされている。

村内をゆっくりと歩いてみた。田園風景の中に静かに佇むこれら茅葺き屋根の住まい。これら先人の家族生活の匂いを嗅ぎながら、時に苦しく時に楽しく四季の暮らしに思いを巡らせてみた。時の流れを超えて私に不思議な落ち着きを感じさせてくれた。それは日本人の故郷を思い出すようなものだった。

撮影 2010年冬

